

サッカーです。東京にいた頃は、フットサルチームに入って大会に出てました。益田に戻ってからは何もしておらず、完全にポンコツです^^

安野 広明

甲子園の高校野球もいいのですがやはりサッカーですね！若かりし頃、サッカー少年でした。

石川 秀樹

行方のであれはフライングを中心としたマリンレジャー観戦するのであれば、断トツで泥臭いラグビーです。ラグビー LOVE

田原 智延

テニスを始めて40年。あと1勝すれば国体に出れる時が一番のピークでした。いながらも楽しく続けていきます。

濱崎 俊明

子供の頃はプロ野球が大好きで南海ホークスを応援するためによく大阪球場に行きました。

中島 大吾

今では見る専門になってしまってます。スポーツですが、最近では“フィギュアスケート”は見た。と思うようになりました。チャンネル争い負けるかな？はかなんか見れません…

佐々木 康恵

年に何度か親や妹夫婦など7人で集まる機会があり、美都でグランドゴルフをやる事が多いです。素人集団なので案外拮抗勝負を演じる良いバランスです。

原 光

「スノボー」です。スキーは全く出来ませんがスノボで雪を滑るのはとても気持ちがいいです。

室田 直樹

「バスケット」です。小学生の頃は地域のクラブチームに所属し、バスケットの日々です。唯一のチームメイトの頃に楽しかった思い出を感じる思い出深い時期です。

橋本 一輝

最近バドミントンにハマっています。子どもとしたり、友達としたり、気軽に楽しめるので休日に楽しくリフレッシュしています。

増子 枝里子

好きなスポーツは陸上競技です。中でもリレーはバトンパスの上手さで順位が入れ替わったりとストーリー性がありワクワクドキドキします。

石川 智恵美



10月1日(火)に第40期経営計画発表会を行いました。
 今期もチーム一丸となって頑張ります！

10～12月の税務・お知らせ

- ・10月・・・個人住民税の納付
- ・11月・・・所得税第2期予定納税額の納付
- ・12月・・・給与所得の年末調整

2024年 10月							2024年 11月							2024年 12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、ありがとうございます。

去る9月20日（金）に第33回ビジネスプラン特別講演会を開催しました。300名を超えるお申込みをいただき、当日は、たくさんの皆さまがご参加下さいました。心より感謝いたします。

また10月1日（火）には、外部に公開する形で弊社の経営計画発表会を開催し、月初のお忙しい時期にもかかわらず、県西部のみならず東部からも併せて約50名の方がお越し下さいました。本当にありがとうございます。弊社での経営方針発表の取組みが、多少なりともご参考になったなら幸いです。

ところで弊社は、今期で40期を迎えました。長きに渡り、地域の中でお仕事をさせていただいていることに感謝すると同時に、仕事を通じて、縁ある皆さまに多少なりとも恩返しできればと思っています。これからお客様や地域を元気にするために、社員と力を合わせて参りますので、末永くビジネスプランとお付き合い下さい。

それでは秋号も、よろしくお願いします。



代表取締役
安野 広明



「ピッパ」で経験を積み上げていく

以前、私と同じく、30代前半で事業を継ぐことになり、ここまで経営して来られた同世代の経営者とお話しする機会がありました。

当時の苦労話を聞きながら、「でもあの時、早いうちに経営者を経験できたのは良かった。今となっては財産になっている。」とおっしゃっていたことに、深く共感いたしました。というのも、ここ数年で私と同世代が続々と事業承継で経営者になられているのですが、先に経験している分、アドバイスできることが多いと感じるからです。確かに、過去の経験が財産（＝強み）になっていると思います。「若い時の苦労は買ってでもせよ」の教訓は、本当にその通りですね。

そしてこのことは、これから先の人生においても同じでしょう。人生で今が一番若いのだから、できるだけ前倒しで経験を積み重ねていくことが、5年先、10年先の自分にとっての財産になります。

ちなみに、経験を積むといった時に知っておきたいのが、「ピッパの法則」。これは、（株）北の達人コーポレーションの木下勝寿社長の本で紹介されていた法則で、「ピッと思いついたら、パッとやる」を合言葉に、「面白そうだな」「気になるな」と思ったら、思いついた瞬間にやる。その場ですぐできない場合は、いつやるかをその場で決める。すると、タスクを滞らせず、次々にこなしていくことができるというもの。ネーミングがユニークなので、記憶に残っていました。経験値を積み上げていくためには、ピッパで実践したいものです。特に自分の苦手なこと、不得意なこと、面倒くさいことなんかは、なおさらそう。先延ばしにする人とピッパで動ける人との経験値の差は、どんどん広がっていきます。見た目は変わらずとも、5年後の実力はまったく別モノになっているでしょう。

わたしたちが「成功」と呼んでいるものは、今の自分にとって都合のよい結果にすぎず、「失敗」と呼んでいるものは、今の自分にとって都合の悪い結果でしかありません。同じ結果でも、時が経てば「成功」が「失敗」に変わったり、「失敗」が「成功」に変わったりします。5年先に何ができるかなんて、誰にも分からないのです。

そのように考えると、失敗を恐れるのではなく、まずは挑戦して経験を積むことを優先した方がよいと思っています。

特別講演会



第33回ビジネスプラン特別講演会を開催しました！

木下晴弘先生を講師としてお招きし、「最高の職場・家庭でより豊かな人生を送るためにおすすめした5つのとらえ方」をテーマにご講演いただきました。

理論的かつ情熱的なお話は、気付かされることが多く、ご参加下さったお客様からも、「素晴らしいお話だった」「何度も涙をこらえた」「楽しくてあっという間だった」などの嬉しいお言葉をたくさんいただきました。

本の紹介



石川 秀樹



『勝つ、ではなく、負けない。 ～結果を出せず、悩んでいるリーダーへ～』

著者：黒田 剛

この本は、サッカー好きで、J1昇格後首位を走っていたFC町田ゼルビアの黒田監督、サイバーエージェントの社長でもある藤田晋さんが関わっているのも、興味が注がれた一冊です。チーム、組織を強固にするには、「原理原則」を徹底させ、失敗の原因、成功の要因を共有し、理解し合うことが重要であると。たとえば、免許取りたての若葉マークの頃は、基本に忠実に運転しますが、数年経つと基本的な安全確認を怠ったり、制限速度を守らなかったり、緊張感や確認意識が欠落するもので、やがて大きな事故に発展します。良い習慣の継続と悪い習慣の排除。この原理原則を徹底させることが、勝者になりうると書かれています。



「なんとなく」で余白時間を埋めないように

これからの時代、会社経営をする上では、生産性向上が不可欠だと声高に叫ばれています。弊社においても、現在、RPA（＝ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入を進めており、人の仕事の一部をロボットが代替できる体制を構築中です。どんな業界でも、AI（人工知能）などのテクノロジーを駆使した業務効率の見直しは、今後のテーマとなるでしょう。

そして、仮に業務のスピードアップを実現すれば、残業時間を削減できたり、休みが取りやすくなったりします。それはそれで、よいことです。

その上で大切だと思うのは、そうして生み出した余白の時間を何に使うのか？

もちろん家族との時間だったり、趣味の時間に充てるのもよいでしょう。ただ、なんとなくスマホを手に取りSNSのタイムラインに流れてくる誰かのキラキラ投稿を眺めたり、興味の向くままになんとかYoutubeを視聴したりなど、なんとなくの時間で余白を埋めてしまうとすれば、もったいないと思います。

また人によっては、別の仕事を増やして余白の時間を埋めようとするかもしれませんね。常に忙しい人は、このパターンです。

「生産性が向上すれば、余白の時間が増えて豊かな人生が送れる」という前提は、（SNS等で）自分以外の他者の情報に反応することではなく、自分の心と向き合うことで得られるものだと思います。とりわけ、経営者やリーダーがそういった余白の時間を持てないと、組織の未来について考える心の余裕がなくなり、「そもそも何のために今の事業をしているのか？」を見失ってしまいがちです。場合によっては、組織のメンバーを誤った方向に導くことにもなりかねません。したがって、生産性向上の取組みと同時に、生み出した時間の使い方にも着目したいものです。



出会う人によって自分が形成される

自分の子供と話をしていると、「これは完全に親（←自分たち）の影響だろうな～」と感ずることがあります。こちらは影響を与えるつもりはなくても、考え方や行動が似てくるんですね。また逆に、「その発想はどこから来たんだろう？」と感ずることも。きっと、学校の先生や友人などから影響を受けているのでしょう。そうやって大人の階段を昇って行くのです。

そしてこのことは、大人になった自分にも置き換えることができます。「なぜ現在の考え方や行動をとるようになったか？」といえは、それは、両親、先生、友人、知人、職場の先輩、同僚、お客様、地域の人、セミナー講師などなど、「過去に出会ったすべての人」から多かれ少なかれ影響を受け、「現在の自分」が形成されたと言えるでしょう。自分でゼロから思考を生み出したなんてことは無いはずで

そのように考えると、「未来の自分」というのは、「これから出会うすべての人」によって形成されると言えます。

したがって、もし仮にいままでと同じ場所で、同じ人とばかり一緒にいて新たな出会いがないとすれば、「未来の自分」は「現在の自分」と変わらないでしょう。仲の良い人たちとだけ一緒に過ごしたいという発想もありかもしれませんが、もしも「今の自分を変えたい!」といった願望があるのなら、やはり、新たな出会いを求めて自ら行動を起こした方がよいと思います。

それは例えば、普段は行かない勉強会に顔を出してみたり、知らない人だらけの懇親会に参加してみたり。かくいう私自身、ストレスもかかりますが、出会いに変化をつけるよう心掛けています。

もしもまだ見ぬ「未来の自分」に出会いたければ、新たな出会いを求めてみてはいかがでしょうか。



ライト兄弟のその後の人生に学ぶ

ライト兄弟といえば、1903年に、ライトフライヤー号で世界初の有人動力飛行に成功したことで有名になりました。歴史上の偉人として、誰もが知っているでしょう。

ただ、彼らが成功した後にたどった人生については、多くの方がご存知ないと思います。詳細は割愛しますが、ライト兄弟は、自分たちの飛行機設計の技術に特許を取得しました。そして類似の飛行機や技術が登場すると、その都度、特許侵害だとケチをつけて裁判沙汰となり、そちらに時間とお金を費やすが故に、さらなる研究開発がほとんどできなくなります。その間、ライバルたちの技術は次から次へと改良され、いつしかライト兄弟の技術は時代遅れになってしまいました。

そんな最中、兄のウィルバーが45歳で亡くなり、その3年後、弟のオーヴィルは飛行機作りをやめてしまいます。つまり過去の成功に固執し、それを守ることに必死になった結果、裁判だらけの決して幸せとはいえない人生を送ったのです。

オーヴィルは晩年、飛行機の発明自体を悔やんだとされており、そのことを物語っています。まさに、成功者の光と影といった感じですね。

ライト兄弟のエピソードを思い出す度に、本当の意味での成功者かどうか、言い換えれば物語がハッピーエンドで終わるかどうかは、人生の最期を迎えるまで分からないし、その前提で日々を過ごすことが大切だとしみじみ考えさせられます。「光が強くなるほど、影が濃くなる」というように、それが大きな成功であるほど注意しなければならないのでしょうね。

何はともあれ、一時的な過去の成功には固執せず、むしろ自らを陳腐化させ、重心は低く保ったまま、努力を継続していきたいものです。



大切なのは、「教育」よりも「共育」のスタンス

私たちはつい、相手を型にはめようとしてしまいがちです。その相手とは、従業員だったり、部下だったり、子供だったり。そしてそれはたいていの場合、「こうなった方が（その相手にとって）よい」という善意からきています。ただし、昔から「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」といった言葉がある通り、残念ながら他人は変えられません。つまり他人を変えようとするのは、不可能に挑んでいるようなものです。一生懸命になって相手を型にはめようとすればするほど、苦しくなるでしょう。

そこで目を向けたいのは、やはり自分自身。当たり前ですが、完ぺきな経営者、上司、親はおらず、どこまでいっても未熟な人間が指導したり教育しているにすぎません。とすれば、自分が正しい、こうあるべきと信じている型も、未熟な今の自分に想像できる型でしかない。場合によっては、そもそもその型が間違っている可能性もあるでしょう。

「こうなった方が（その相手にとって）よい」が、いつの間にか、「こうなった方が（自分にとって都合が）よい」にすり替わっているかもしれません。にもかかわらず、相手を自分の型にはめようとして自分が苦しむというのは、少し引いた目で見ると、滑稽にすら思えます・・・と書きながら、私もついやってしまうのですが（汗）。

したがって意識した方がよいのは、一方的に相手を変えようとするのではなく、自分も共に変わること。すなわち、「教育」ではなく「共育」です。

自らが学び続け、それによって具体的な行動を変えることができれば、その変化は、大なり小なり何かしらの形で周りに影響を及ぼします。

それによって、もしかすると、変わってもらいたい相手にも何かが伝わるかもしれません。そうやって、ひたすら自分が学び、行動することで変化の波紋を起こしていく。そのような共育のスタンスこそが望ましいのではないかと考えています。